



自分史より見る情報探索の進化

医学部神経科学講座教授
附属総合情報センター長
長峯 隆

本年4月1日より氷見徹夫名誉教授のあとを受け、附属総合情報センター長を拝命いたしました。先達が切り拓き、高みを目指した道筋を、一歩ずつ踏み固め、より遠くの展望を目指して、進んでいきたいと思っております。

本職を拝命するにあたって、自分自身の情報に関する経験を振り返ってみました。初めてのまとまった講義は、1970年代後半の大学で受けました。実習で使用した記憶媒体は紙テープでしたが、研修医時代にはパーソナルコンピュータの普及に伴い、個人でフロッピーディスクを持つようになりました。当時は400KB程度でしたから、30年ほどの間に、100,000倍の容量になっています。経験則を述べたムーアの法則は、半導体素子の性能についての「18か月ごとに倍になる」という指数関数的増加です。1965年に出たものが現在も健在のようですから、情報の基盤技術は指数関数に従うのでしょうか。

図書館利用は、研修医になって大きく変わりました。文献検索は関係雑誌を端からみていくのでは追いつかず、分厚い Index Medicus をめくり、関連する主題ごとに分類された論文のタイトルをみていました。効率的になったのは、80年代に検索語の組み合わせが可能なオンライン・データベース・システムに巡り合ってからです。世界数カ所の図書館のコピーサービスとも連携していましたが、秒単位での課金体制で高価でした。時間短縮のため、講習会に参加したり、米国国立医学図書館 (National Library of Medicine: NLM) 発行の生命科学用語集 MeSH (Medical Subject Headings) を眺めました。そのような中、1997年に PubMed として Medline をインターネット無料公開した NLM の大英断には大いに助けられました。

医療情報の講義の中では、短時間ながらプログラミングもありました。FORTRAN の他に、当時、米国の主要プログラム言語5つの中の MUMPS (Massachusetts general hospital Utility Multi-Programming System) もありました。医療情報処理用に特化したものであり、赴任先で患者データベースを構築している医局もあり、自分でも触ってみたものです。その後、それほど普及しなかったようですから、言語の変遷はさけられないのでしょうか。ただ、2020年度から小学校においてもプログラミング教育が導入されるのは、プログラミングの考え方そのものは重要視されていることだと思います。

自分自身の限られた経験を振り返ってみても、この40年ほどの間の情報化社会の発展はめざましいものがあります。一方で、学生時代の講義ノートをめくってみると、最近の方が講義の情報量は少ないかもしれません。私自身の講義でも、直接扱っている内容は年々減ってきています。一見、逆説的なようですが、情報量の爆発的な増加に対しては、扱う情報量を増やすのみでは対応できず、如何に効率的に利用するか、個人で対応できる技術を磨く、などに視点が移ってきていると感じている昨今です。

総合情報センターの果たす役割も年々変化しております。センターの職員ともども、さまざまな課題に取り組み、努力してまいります。みなさま方のお気づきの点を何なりとお寄せください。

New が揃いました

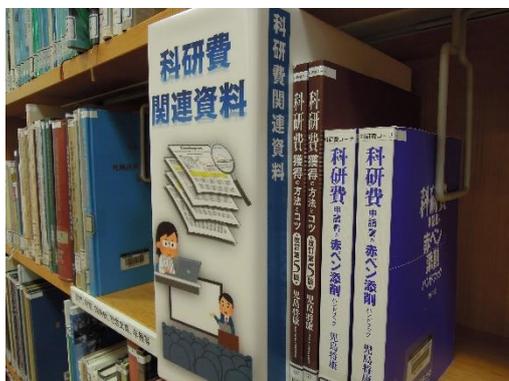
附属総合情報センターでは、平成 22 年度より学生の学年代表の方と当センター職員で図書館利用についての意見交換の場として懇談会を実施し、施設、サービスの改善に取り組んでまいりました。今年度の懇談会も現在実施中でございます。

その中で当センターの取り組みが学内に周知されていないことを痛感し、資料の電子化の普及とともに図書館離れが本学のみならず他大学からも聞こえてきている昨今、今号の Barks では平成 29 年度に受け入れた図書や平成 30 年度に入り開始した新しい取り組みについてご紹介させていただきます。

科研費コーナーを新設しました

産学・地域連携センター（現在、研究支援課）と共同企画です。

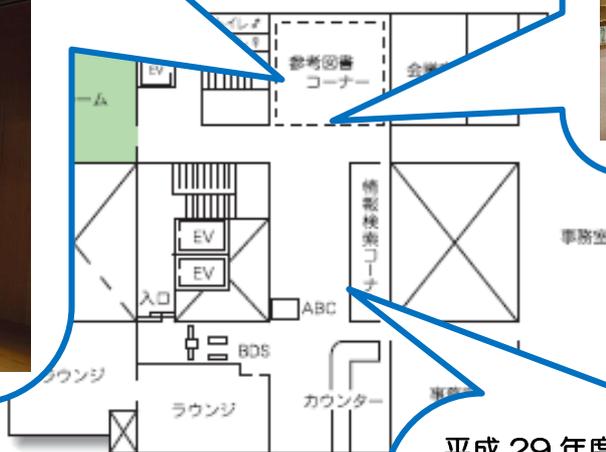
2階参考図書コーナーにあります。



英語多読図書 さらに充実しました！



情報センター2階



平成 29 年度卒業生のみなさまから 48 冊ご寄贈いただきました。

2階カウンター横に配架後、4階書架へ。



■情報センターへの寄贈図書

下に紹介したみなさまからは、毎年度図書を寄贈いただいております。厚くお礼申し上げます。

寄贈図書の詳細は、当センターHP の新着情報をご確認ください。

URL : <https://infonavi.sapmed.ac.jp/jpn/>

(単位：冊)

年度	札幌医科大学後援会	弘仁会	卒業生
H29	324	138	48
H28	327	135	74

■図書館に置いて欲しい図書を選ぶ手続きが簡単になりました（学部学生限定）

次のように、とても簡単になりました。ぜひ、ご活用ください。

①大学書房(大学東棟1階)で売っている本と学生証をレジで提示するだけ！

②申込みフォームに書名など必要事項を入力して送信するだけ！

詳しくは、情報センターHP、図書館ラウンジ・大学書房に置いてあるポスターやパンフレットをご覧ください。

◆EndNote basic 版(無償)講習会(27名参加)

5月24日(木)に、「文献管理ソフト EndNote basic 版(無償)講習会」を、基礎医学研究棟5階 PC 実習室で開催しました。

講師(EndNote 国内総代理店)吉田氏により、アカウント作成、プラグインダウンロード・インストールから始まり最終的な参考文献リスト作成まで、自習形式で講習を行いました。非常にわかりやすかった、大変勉強になったなど好評でした。



・・・EndNote 講習会の様子・・・



・・・Visible Bod 講習会の様子・・・

◆Visible Body 講習会(16名参加)

5月31日(木)に、「3次元人体解剖画像データベース Visible Body 講習会」を、基礎医学研究棟5階 PC 実習室で開催しました。

講師(発行元 Wolters Kluwer 社)ディアコノポリス氏により日本語でわかりやすく、PC、スマートフォンから実際にデータベースを使いながら、人体のMRI画像やアニメーションなど、データベースの使い方を詳しく説明していただきました。

今回の講習会にご参加していただきましたみなさま、有難うございました。

9月頃には、「Web of Science」の講習会を開催予定です。ホームページでご案内しますので、是非ご参加ください。



情報センター ひとくちMEMO

■自宅にしながら、図書館を利用する！！

学内所属員のみなさまは、学外からでもリモート・アクセスから学内と同じ環境で、図書館サービスをご利用することができます。

例えば、通常は学内のみの利用である有料データベース(医中誌 Web 等)や、大学で契約している電子ジャーナル、電子ブックも、リモート・アクセスでご自宅や出張先、実習先で、検索、閲覧、更には保存や印刷をすることもできます。

リモート・アクセス時は SAINS アカウントが必要となりますので、取得されていない学内所属員の方は、SAINS 利用登録申請書を、附属総合情報センター総務・システム係までご提出ください。

リモート・アクセス手順



情報センターセキュリティ便り

昨今、テレビや新聞を賑わせる「フィッシング詐欺」と呼ばれる詐欺行為をご存知でしょうか？フィッシング詐欺とは、送信者を詐称した電子メールを送りつけたり、偽の電子メールから偽のホームページに接続させたりするなどの方法で、クレジットカード番号、アカウント情報（ユーザID、パスワードなど）といった重要な個人情報を盗み出す行為のことを言います。

特に近年、フィッシング詐欺による被害が増大しております。攻撃者は、Apple、Amazon、Line、楽天、各種銀行等、様々な業態、サービスを詐称し、アカウントやパスワード、クレジットカード番号等を詐取しようとしています。

フィッシング対策協議会 (<https://www.antiphishing.jp>) が公表した「フィッシングレポート2018」によると、2017 年下半期のフィッシングサイトの URL 件数は例年の 1.7 倍となる 5,000 件弱となり、フィッシング攻撃が活発になりつつあります。

また、大学関係のサービスを詐称したフィッシング詐欺もあり、実際に被害が出ております。例えば、富山のある大学においてフィッシング詐欺により学生ら 210 人の個人情報が漏えいしました。（5月30日公表）。また、神奈川のある大学においては 29 アカウントがフィッシング詐欺により詐取され、約 1 ヶ月の間、受信メールが外部へ意図せず転送されました。これにより、氏名や住所、電話番号等、合計 5,794 件の個人情報が流出しております。皆様におかれましては、フィッシング詐欺への対策として、以下の点にご注意ください。

- ID とパスワードを入力する Web ページへアクセスする際は、メール本文内の URL リンクから移動せず、信頼出来る検索サイトから検索して移動する等、正しいページへのアクセスを心がけて下さい。
- 違和感のあるメール(日本語がおかしい、いつもと違う人から送付されている等)を受信した際、「本当に正しいメールなのか？」と疑ってください。本センター提供メールサービスご利用の場合、ご連絡をいただけましたら、正常なメールか調査が可能です。
- ログイン画面において、Web ブラウザの URL 表示部分(アドレスバー)に鍵マークが表示されているか確認してください。今日において、一般商用サービスのログイン画面のほとんどは鍵マークが表示されるようになっていきます。



■連絡先■

総務・システム係

内 線: 22390、22490

Email: icccj@sapmed.ac.jp

◆総合情報センターへのお問い合わせ先

お問い合わせ内容	内 線	E-mail	照会先
図書館の利用に関する事	24240	libserv@sapmed.ac.jp	利用サービス (カウンター)
学内所属員の文献複写依頼に関する事	24180	illo@sapmed.ac.jp	利用サービス
学外からの文献複写の申し込みに関する事	24170	illr@sapmed.ac.jp	利用サービス
図書に関する事	24160	book@sapmed.ac.jp	図書係
雑誌に関する事	24230	serial@sapmed.ac.jp	図書係
札幌医学雑誌に関する事	24160	satuisi@sapmed.ac.jp	図書係
メールアドレス、LAN への機器接続に関する事	22390	icccj@sapmed.ac.jp	総務・システム係
図書館へのご意見・ご要望に関する事	24180	libserv@sapmed.ac.jp	利用サービス

誌名「Barks (パークス)」は、本の語源でありますラテン語の「樹皮 (liber)」の英訳です。

パークス
Barks

Sapporo Medical University
Scholarly Communication Center

北海道公立大学法人
札幌医科大学附属総合情報センター

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目
TEL 011-611-2111(代表) FAX 011-641-9646

URL <https://infonavi.sapmed.ac.jp/jpn/> E-mail libserv@sapmed.ac.jp